Pray for Japan

パルシステム東京
東日本大震災復興支援活動報告書 2016

パルシステム東京は「3.11を忘れない」を基本視点に、東日本大震災被災者支援のため、
組合員とともに様々な支援活動に取り組んできました。2016年度の取り組みについて、ご紹介します。

トピックス 宮城県東松島市 仮設住宅への支援

2011年に、宮城県東松島市の仮設住宅で、組合員参加の傾聴ボランティア「パル・パラソルカフェ」による被災者支援をはじめてから6年。これまで形を変えながら、継続して支援を続けてきました。仮設住宅の皆さんの多くは2017年に高台の災害公営住宅に移り住むことが決まっています。仮設住宅での最後の交流と、これまでの支援活動を振り返ります。

2016 7/24・25 夏休み!参加して復興応援! 仮設住宅の夏祭りボランティア in宮城&東松島・石巻被災地見学

2014年から支援してきた仮設住宅の夏祭りも今年で最後。住民の高齢化が進む中、パルシステムの応援を心待ちにしている気持ちがひしひしと伝わり、手をとりあって最後の夏祭りを惜しむ姿も。
2日目は津波被害にあった旧門脇小学校と旧大川小学校（石巻市）などを訪れ、「被災地を忘れない」気持ちを全員で共有しました。

自治会の販売のお手伝いや、カキ氷、輪投げなどの出店、ゲーム大会で祭りを盛り上げました。

2017 2/11 宮城県東松島市 仮設住宅日帰り訪問

災害公営住宅への移転前に、これまでの支援参加組合員と仮設住宅の方々との交流会を開催。思い出を語り合い、今までの交流の積み重ねが絆に変わっていくことを認識しました。
移転予定の高台、野蒜（のびる）北部丘陵地区の復興に向かう様子も見学し、参加組合員と「私たちがこれからできる支援」について話し合いました。

これまで交流を深めてきた仮設住宅の皆さんと組合員

これまでの交流

2011 — 2012

傾聴ボランティア「パル・パラソルカフェ」

仮設住宅の集会所等で、カフェの開設と傾聴活動を開始。組合員も交えた住民同士の交流が活発に行われました。（計7回、組合員63人、役職員60人が参加）

2013

支援仮設住宅を視察

4つの仮設住宅を訪問し、住民の方々と再会。現在の状況を聞き、今後の支援を考える機会をもちました。（組合員10人、役職員6人が参加）

2014 — 2016

仮設住宅・自治会夏祭りの支援

自治会からの要請で、2014年から夏祭り支援を開始。流しそうめん、お菓子のつめ放題などの出店で、祭りを盛り上げました。（計3回、組合員等62人、役職員37人が参加）

2017

仮設住宅への訪問&交流

支援の節目として仮設住宅の方々との交流会を開催。（組合員8人、役職員10人が参加）

2017年夏から、仮設住宅の方々は災害公営住宅へと移転。

「3.11を忘れない」を基本視点に、組合員とともに復興支援活動を継続します。

1 学び・行動する!

福島支援カンパや、被災地スタディツアーなど、
多様な復興支援活動に取り組みます

福島スタディツアー　10/8〜9

福島の今を学び、私たちにできることを考えるスタディツアー。訪れた産直産地（うもれ木の会・みちのく野菜倶楽部・二本松有機農業研究会）では、放射能対策や、農地の上にソーラーパネルを設置する営農型発電など、力強い取り組みが進められていました。

放射能対策や、こだわりの栽培方法を説明する梨の産地「うもれ木の会」阿部進さん

東日本大震災復興支援シンポジウム「考えよう、応援しよう、震災後のふくしま」　3/11

「3.11を忘れない」をキーワードに毎年開催しているシンポジウム。2016年度は、ベラルーシで医療活動に従事された現・長野県松本市長の菅谷昭氏から、チェルノブイリ原発事故後の子ども達の検診データや現地の様子等について伺いました。

ベラルーシで治療をした子ども達と再会した様子について触れる菅谷昭氏

春休み！東京でリフレッシュ！パルシステム福島親子保養企画　3/25〜27

福島の子ども達の支援を目的とした保養企画は、今回で7回目。歓迎会では、東京と福島の組合員が交流。「パル未来花（ミライカ）基金」助成グループによるワークショップなどで盛り上がりました。

子ども達にマグネットデコパージュを教える「はんどめいど・OHANA」の皆（みな）さん（2015年度「パル未来花（ミライカ）基金」助成グループ）

福島支援カンパ　2/20〜3/17

福島県で放射能から子どもたちを守る活動に取り組んでいる市民団体を支援するために、2012年度から組合員カンパを行っています。2016年度は、組合員から837万6,134円のカンパ金が寄せられました。

2012〜2016　**累計実績** 46,397,014円

2016年度

贈呈額

組合員カンパ	8,376,134円
城南使用金庫ボランティア預金利息	1,000,000円
合計	9,376,134円

※城南信用金庫に預けている「ボランティア預金」の利息分100万円も各団体に分配・贈呈しています。

カンパ贈呈団体

団体名	贈呈額
NPO法人 いわき放射能市民測定室たらちね	2,089,067円
沖縄・球美（くみ）の里	1,405,408円
一般社団法人 子どもたちの健康と未来を守るプロジェクト	1,425,769円
NPO法人 ハートフルハート未来を育む会	1,329,516円
NPO法人 ふよう土2100	1,787,105円
NPO法人 まつもと子ども留学基金	1,339,269円

沖縄県久米島で福島の子ども達の保養に取り組む「沖縄・球美（くみ）の里」

被災地で障がいをもつ子どもとその親を支える「ふよう土2100」

親子のストレス緩和や地域の支え合いをサポートする「ハートフルハート未来を育む会」

長野県松本市内の寮などで子ども達を受け入れる「まつもと子ども留学基金」

2 組合員の復興支援を応援!

震災復興支援基金「パル未来花（ミライカ）基金」を中心に、
組合員の自主的な復興支援活動の輪を広げます

震災復興支援基金「パル未来花（ミライカ）基金」

震災から6年。継続して被災地の支援に取り組む組合員がいます。「パル未来花（ミライカ）基金」は支援を続ける組合員を資金面で応援する基金。2016年度は、コンサートや祭りなどの復興応援イベント、被災者の手作り小物の販売、仮設住宅での交流などに取り組む13グループに計400万円を助成しました。

福島県の親子を対象とした保養合宿。ブルーベリー摘みを体験する子ども達（福島こども支援・八王子）

岩手県陸前高田市の仮設住宅の方々などが集い、親睦を深める「藤棚カフェ」（藤結びの会）

宮城県石巻市の漁業者支援として、ホタテの耳釣りをお手伝い（シューレ大有志石巻支援を風化させない会）

岩手県釜石市で「東日本震災復興応援秋祭り」を開催。写真はアイヌ音楽ユニット「まったり〜ずルーアプカシUPOPO」（復興応援かけこみキャラバン）

助成実績

	助成団体数	助成合計金額
2014年度	12グループ	2,276,710円
2015年度	16グループ	4,000,000円
2016年度	13グループ	4,000,000円

2016年度助成

助成グループ	助成金額
アンサンブル カーナス	154,000円
アンサンブル ふぁさふぁす	145,860円
いっしょに！東北	397,700円
渋谷パルの会	254,910円
シューレ大有志石巻支援を風化させない会	402,000円
チャイるのネット	140,000円
ハート・のんびる	400,760円
東日本大震災「祈り」実行委員会	342,000円
福島こども支援・八王子	430,540円
特定非営利活動法人　復興応援かけこみキャラバン	303,000円
藤結びの会	405,480円
ホッとタイムinキャラバン2016	220,460円
星つむぎの村	403,290円

3 組合員の声に応えて

甲状腺検診の取り組みを継続します

子どもの甲状腺検診　11/20・12/3・12/4

東京電力福島第一原発事故以降、組合員から都内での放射線被ばくへの不安の声が寄せられるように…。その声に応え、2015年度から、組合員と被災地から避難している子どもを対象に甲状腺検診を実施、継続しています。

検診に先立ち、キックオフ学習会を開催。内科医の牛山元美氏を講師に、放射線による人体影響などについて学びました。

検診は、NPO法人いわき放射能市民測定室たらちねの協力を得て実施。174人の子ども達が受診しました。

パルシステムグループ全体でも、組合員の声に応え、さまざまな取り組みを実施しています。

食品における放射能対策

2011年の原発事故直後から、独自の基準を設け、自前の「商品検査センター」で検査を継続しています。

FIT電気（再生可能エネルギー）を中心とした「パルシステムでんき」の推進

脱原発を目指し、再生可能エネルギーへのシフトを実現するため、再生可能エネルギーを中心とした電力供給事業「パルシステムでんき」を2016年から開始しました。

Pray for Japan2016　発刊に寄せて

東日本大震災から6年が過ぎましたが、避難されている被災者は未だ10万人を超えています。パルシステム東京では、「3.11を忘れない」を基本視点に、組合員とともに様々な復興支援活動を継続してきています。組合員の自主的な復興支援活動の輪を広げるために創設した、「パル未来花（ミライカ）基金」の助成は4年目となりますが、時間の経過によるニーズの変化に応じて、新しい支援のあり方を考えていく時期にさしかかっています。また、スタディツアー、福島の親子保養企画、支援カンパ、甲状腺検診など多様な支援活動をすすめています。被災地を応援し続けるためにはどのような行動が求められているのか。これからも組合員とともに考え、持続的な支援活動を行ってまいります。

生活協同組合パルシステム東京　専務理事　**辻 正一**

主な復興支援活動（2016.4.1～2017.3.31）

日　程	内　容
4月	2016年度 震災復興支援基金「パル未来花（ミライカ）基金」より13グループに総額4,000,000円を助成
5月21日	「震災から5年！これから私たちができること～2015年度パル未来花（ミライカ）基金報告会～」を開催。40人（助成グループ16団体24人、組合員7人、役職員9人）が参加
5月27日	意見書「全国に被ばくを強い、環境を汚染する『8,000ベクレル／kg以下の汚染土を全国の公共事業で利用』方針に反対します」を環境大臣に提出
5月29日	福島支援カンパ贈呈団体、「子どもの甲状腺検診」協力団体「いわき放射能市民測定室たらちね」定期総会に職員2名が参加
7月24日～25日	「夏休み！参加して復興応援！仮設住宅の夏祭りボランティアin宮城＆東松島・石巻被災地見学」を開催。30人（組合員18人、役職員12人）が参加
9月	福島の子ども達を対象とした保養活動を行う「はちみつ會」へ助成（2016年度パルシステム東京市民活動助成基金）
9月16日	広域避難者支援連絡会in東京主催「広域避難者支援シンポジウム『東日本大震災から5年半 避難者のいま』」に職員2名が参加
10月8日～10月9日	「福島スタディツアー」を開催。25人（組合員17人、役職員8人）が参加
10月23日	広域避難者支援連絡会in東京主催「避難者と支援者による2016ふれあいフェスティバル」に出展及び協賛。565人（うち組合員1人、役職員5人）が参加
10月26日	「原発事故被害者の救済を求める全国運動　第三期・請願署名『原発事故被害者に「健康に生きる権利」を 賠償打ち切り・帰還の強要に反対します』」を組合員対象に実施。10月26日に30,995筆の署名を衆参両議院議長、内閣総理大臣、復興大臣宛に提出
11月	パルシステム連合会主催「2016年度福島子ども保養カンパ」へ300,000円を組織カンパ
11月5日	「子どもの甲状腺検診キックオフ学習会『いま』改めて考える 放射能とその影響」を開催。107人（組合員88人、役職員16人、関係者3人）が参加
11月12日	未来の福島こども基金・チェルノブイリ子ども基金の活動報告会「2016年夏 子どもたちの保養・チェルノブイリと福島」を同団体と共催。48人（組合員4人、役職員6人、員外31人、報告団体関係者7人）が参加
11月24日	日本生活協同組合連合会「震災復興支援交流会」に職員1名が参加
11月28日	震災復興支援基金「パル未来花（ミライカ）基金」2014年度助成グループ「ならは盛り上げ隊」及び、同グループが支援する「福島県楢葉町わらじ組」からの要請により、組合員にわらじ作りの材料となる古Tシャツ寄付を呼びかけ。50件約600枚の寄付が寄せられた
11月20日・12月3日・12月4日	「子どもの甲状腺検診」を実施。「いわき放射能市民測定室たらちね」及び、東京都医療社会事業協会の協力で、組合員・役職員・被災地からの避難者の子ども174人が参加
12月22日	「福島の子どもたちとともに・世田谷の会」からの要請により、「ふくしまっ子リフレッシュ in世田谷2016年冬」へ食材支援
2017年1月	「福島原発被害千葉集団訴訟　公正な判決を、求める署名」を役職員対象に実施し91筆を、協力依頼先であるパルシステム千葉に提出
2月1日	広域避難者支援連絡会in東京主催「第14回広域避難者支援ミーティングin東京」に職員1人が参加
2月6日	パルシステム連合会主催「福島原発事故から6年を迎えて 福島の今から未来をつなぐ」に組合員・役職員が参加
2月11日	「宮城県東松島市仮設住宅日帰り訪問企画」を開催。これまでの被災地支援参加者18人（組合員8人、役職員10人）が参加
2月11日	楢葉町社会福祉協議会及び、震災復興支援基金「パル未来花（ミライカ）基金」2014年度助成グループ「ならは盛り上げ隊」からの要請により、同町仮設住宅での「第6回ならは雪まつり」へ食材支援
2月15日・2月18日	「2016年度『パル未来花（ミライカ）基金』会計・活動報告説明会」を開催。2/15に組合員7人、2/18に組合員3人が参加
2月18日	「2017年度『パル未来花（ミライカ）基金』助成活動申請説明会」を開催。組合員2人が参加
2月20日～3月17日	「福島支援カンパ」を実施。組合員より8,376,134円が寄せられる。城南信用金庫ボランティア預金利息1,000,000円とあわせ、総額9,376,134円を6団体に贈呈
12月26日	避難者への支援を目的とする「避難の協同センター」に賛助金を拠出
3月11日	「東日本大震災復興支援シンポジウム『考えよう、応援しよう、震災後のふくしま』」を開催。108人（組合員62人、員外9人、団体等関係者18人、役職員19人）が参加。「福島支援カンパ贈呈先団体」6団体の活動も報告
3月25日～27日	「春休み！東京でリフレッシュ！パルシステム福島親子保養企画」を開催。パルシステム福島より組合員親子14組38人、役職員3人が参加。歓迎会にパルシステム東京組合員親子10組22人、組合員ボランティア9人、パル未来花（ミライカ）基金助成グループ8人、役職員10人が参加

東日本大震災支援活動ブログ
Pray for Japan

パルシステム東京の東日本大震災支援活動ブログでは、
2011年3月からの復興支援活動を紹介しています。
パルシステム東京ホームページ（http://www.palsystem-tokyo.coop）より

発行日：2017年7月1日　発行：生活協同組合パルシステム東京